鶴見川多目的遊水地

洪水から人々の暮らしを守るために

鶴見川と鳥山川が合流する地区は、もともと自然の遊水機能がありました。総合治水対策の一環として、越流堤や周囲堤等を整備して、この機能を向上させたのが鶴見川多目的遊水地です。鶴見川の洪水流を一時的に取り込むことで、周辺地域をはじめ下流域を洪水の危険から守ります。総貯水量は390万m³、２５mプール約10,000杯分の水をためることができます。

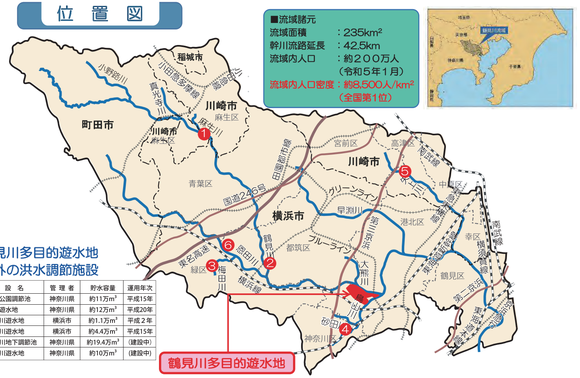
都市の憩いの場として

この遊水地は、新横浜という都市部に位置し、また新幹線駅や高速道路ICも近く非常に利便性に優れています。
そこで、治水機能に加え都市機能(医療関係施設や公園施設)を併せて多目的に利用することとし、国と横浜市が共同で整備しました。子どもの遊具やスポーツ施設などが整備された新横浜公園や、2002年FIFAワールドカップの決勝戦、2019年ラグビーワールドカップの会場の１つとなった横浜国際総合競技場（日産スタジアム）も、この遊水地にあるのです。

多様な生物の生息場として

多目的遊水地では公園整備とともに自然環境整備も実施されました。多自然型の水路、大小の池、まとまった草地などが多様な生きものの生息の場となっています。

位置図



鶴見川多目的遊水地以外の洪水調節施設

施　設　名	管 理 者	貯水容量	運用年次
①恩廻公園調節池	神奈川県	約11万m³	平成15年
②川和遊水地	神奈川県	約12万m³	平成20年
③梅田川遊水地	横浜市	約1.7万m³	平成２年
④鳥山川遊水地	横浜市	約4.4万m³	平成15年
⑤矢上川地下調節池	神奈川県	約19.4万m³	（建設中）
⑥恩田川遊水地	神奈川県	約10万m³	（建設中）

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

〒230-0051 神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央2-18-1
TEL：045-503-4000（代表）
FAX：045-503-4001

【ホームページ】
https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/

【アクセス】
JR京浜東北線鶴見駅、
京急鶴見駅から徒歩10分

新横浜出張所

〒222-0036 神奈川県横浜市港北区小机町2081
TEL.045-476-5003
FAX.045-476-5004

【アクセス】
ＪＲ横浜線小机駅から徒歩7分

【担当区間】：
・鶴見川・・・河口～第三京浜
・矢上川・・・鶴見川合流点～渋川合流点
・早渕川・・・鶴見川合流点～高田橋
・鳥山川・・・鶴見川合流点～岸根小橋

地域防災施設 鶴見川流域センター

TEL.045-475-1998
FAX.045-475-1999

【開館時間】
10:00～17:00
臨時休館、開館もありますので
ご確認の上、来館ください。

【ホームページ】
https://www.ktr.mlit.go.jp/keihin/keihin00490.html

【休館日】
毎週火曜日及び年末年始

鶴見川多目的遊水地

洪水から暮らしを守り、安らぎを創出

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

流域が一体となって取り組む洪水防止（総合治水対策）

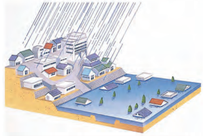
急激な都市化で一気に大量の雨水が河川に集まり、水害が頻発するようになった鶴見川流域では、 河川整備だけでは水害を防止することが難しいため、 河川と流域が一体となって治水対策に取り組んでいます。

都市化の変遷

都市化による流出の変化

開発前　雨は地中に浸透したり、水田やため池にためられ、川への流入が抑えられます

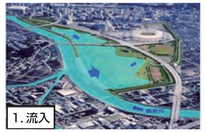
開発後　アスファルトやコンクリートでおおわれると、雨水が一気に川に流れ込みます

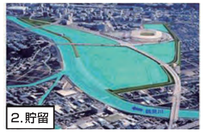


市街化の進行により、流域の保水・遊水機能が減少

総合治水対策のイメージ

水をため、あふれさせないメカニズム
～遊水地のしくみ～





洪水で川があふれそうになった時、洪水を一段低い越流堤から遊水地に流し込みます。

洪水を遊水地に、一時ため込みます。

河川の水位が下がった時点で、排水門を使って少しずつ川に流していきます。

鶴見川多目的遊水地事業の経緯

昭和55年4月	遊水地事業の大規模承認
昭和60年1月	建設省が用地買収に着手
平成元年2月	鶴見川多目的遊水地事業に関する基本合意書の締結
平成5年1月	都市計画決定
平成6年1月	起工式挙行/地内掘削工事に着手
平成9年10月	横浜国際総合競技場完成 (平成6年1月工事着手)
平成10年10月	神奈川国体開催　(横浜国際総合競技場)
平成14年5月	W杯開幕 (6月30日W杯決勝戦 横浜国際総合競技場)
平成15年6月	鶴見川多目的遊水地運用開始
平成15年9月	鶴見川流域センター開所
令和元年9月	ラグビーW杯開催 (10月13日　日本スコットランド戦　横浜国際総合競技場 (日産スタジアム))

鶴見川多目的遊水地計画諸元

- ●遊水地面積:84ha
- ●洪水調節量:遊水地単独で260m³/s
- ●総貯水容量:390万m³
- ●計画高水位:T.P.+8.573m
- ●地内地盤高:新元石川線以北T.P.+2.5m
  以南T.P.+4.0m
- ●越流堤:構造(法面部) カゴマット工
  (天端部)カゴマット+アスファルト舗装
  越流堤天端幅15m堤防高T.P.+6.6m延長450m
- ●囲繞堤:堤防高T.P.+9.773m延長1,830m
- ●周囲堤:堤防高T.P.+9.773m延長2,260m
- ●排水門:敷高T.P.+2.0m
  洪水時排水B=10.0m×H=7.8m
  (ローラ式鋼製ゲート)(水門形式)

遊水地のご紹介

えつりゅうてい 越流堤

囲繞堤の一区間を周辺の堤防の高さよりも低い構造にし、増水時に河川水を流入させる施設です。
越流堤は維持管理、周囲の景観や環境への配慮から、カゴマット工法を採用しています。

減勢池

越流堤から流入した水の流れの勢いを減少させるエリアです。

周囲堤

遊水地を取り囲むように設けられた堤防で、遊水地と周辺の土地との間に位置する堤防を周囲堤と呼びます。

いぎょうてい 囲繞堤

遊水地と河川との間に位置する堤防を囲繞堤と呼びます。

排水門

貯留した水を排水するための水門施設です。

遊水地管理センター

- ●1F2F 地域防災施設鶴見川流域センター
  遊水地や流域の情報発信の場であり、学習施設でもあります。
- ●3F4F 新横浜出張所
  遊水地をはじめ、鶴見川の国管理区間の管理をしています。

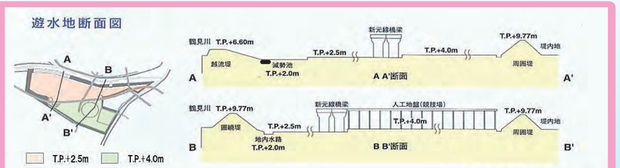
ピロティ方式

遊水地内には、横浜国際総合競技場（日産スタジアム）をはじめ、横浜市の総合保健医療センター、総合リハビリテーションセンター、障害者スポーツ文化センター(横浜ラポール)などの建造物があります。
各施設は、河川水が遊水地内に流入しても浸水しないピロティ方式(高床式)が採用されています。

洪水時に水を貯留する地内地盤

遊水地の地盤高は、もともとT.P.+6.0m程度ありましたが、多くの水が貯留できるよう掘削しました。利用にも配慮し、新横浜元石川線より以北はT.P.+2.5m、以南はT.P.+4.0mとしました。
なお、地内を掘削した土の量は230万m³あり、周囲堤や囲繞堤などに再利用するほか、横浜市の商本牧の埋め立て事業に有効利用を図りました。

遊水地断面図



※T.P.=日本の標高基準である、東京湾平均海面

鶴見川多目的遊水地の流入実績

鶴見川多目的遊水地では、平成15年に運用開始してから令和5年3月末までに22回の流入実績がありますが、特に平成26年10月の台風18号時には、運用開始以来最大の約154万㎥の洪水調節を行い、下流の水位低減に貢献しました。

No.	年月日	出水名	貯留量
1	平成15年8月15日	前線による豪雨	約7,000m³
2	平成16年10月9日	台風22号	約1,250,000m³
3	平成16年10月20日	台風23号	約80,000m³
4	平成17年9月4日	前線による豪雨	約50,000m³
5	平成20年5月20日	前線による豪雨	約9,000m³
6	平成20年8月30日	前線による豪雨	約50,000m³
7	平成21年10月8日	台風18号	約64,000m³
8	平成22年12月3日	前線による豪雨	約62,000m³
9	平成23年8月26日	前線による豪雨	約54,000m³
10	平成24年5月3日	前線による豪雨	約18,000m³
11	平成25年4月6日	低気圧による豪雨	約922,000m³
12	平成25年9月15日	台風18号	約50,000m³
13	平成25年10月16日	台風26号	約328,000m³
14	平成26年6月6日	低気圧による豪雨	約22,000m³
15	**平成26年10月6日**	**台風18号**	**約1,536,000m³**
16	平成27年12月11日	低気圧による豪雨	約13,000m³
17	平成28年8月22日	台風9号	約422,000m³
18	平成29年10月23日	台風21号	約102,000m³
19	平成30年3月9日	低気圧による豪雨	約907,000m³
20	令和元年9月9日	台風15号	約64,000m³
21	令和元年10月12日	台風19号	約936,000m³
22	令和3年9月18日	台風14号	約189,000m³

平成26年10月の台風18号時の多目的遊水地のようす

XRAIN（レーダ雨量計）

近年、局地的豪雨が多発しています。都市部の上空に出現した雨雲を素早く、細かくとらえ、水害防止に役立てるために遊水地管理センター横にレーダ雨量計が設置されています。
雨の強さや雨雲を1分間隔・250m格子で観測することができます。
（従来レーダ（Cバンドレーダ）は5分間隔、1km格子）

XRAIN

CバンドデータとXRAINデータとの比較

川の防災情報

川の防災情報は、国土交通省が提供する雨や川の情報を公開しているウェブサイトです。

https://www.river.go.jp/index

右のような情報をリアルタイムで知ることができます。

- レーダ雨量 XRAIN
- 雨量観測所（降雨量）
- 観測所等の地図情報（河川水位等）
- ライブカメラ（河川の状況）